



第125号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
http://kanpachiba.com/

新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長 旭 健一

平成31年の新春を迎え、(特非)環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃、地域の環境保全をはじめ、環境学習、地球温暖化対策、循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践されるとともに、県の環境講座の実施等にも御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

また、エコメッセにつきましても、桑波田代表に実行委員長として御尽力をいただいております。昨年は「ちばから発信、SDGs」のテーマのもと、各主体がSDGsの視点から活動を見直し、発信していくイベントとなり、県もシンポジウムに参加して意見交換を行いました。エコメッセは県にとっても、市民・企業・大学など様々な主体

との協働の場として大切なイベントであり、共に発展し続けていけることを願っています。

さて、県では、昨年3月に「千葉県の気候変動影響と適応の取組方針」を策定し、気候変動による中長期的な影響に対する施策の方向性を定めたところです。気候変動をはじめとした環境問題に対応した持続可能な社会づくりを推進するためには、多様な主体を繋ぎ、環境活動の推進と充実を目指す、(特非)環境パートナーシップちばの皆様の取組が大変重要です。今後ますますのご協力をお願いします。



飛躍の年に

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事 桑波田 和子

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成最後の年が明け、新たな年号への期待と、「平成」を振り返るお正月にもなりました。昨年は、当会が特定非営利活動法人を取得し歩み始めた1年でした。

これまで続けてきた「エコメッセ2018inちば」「千葉県環境講座実施」などとともに、「SDGを達成するためのESD人材育成事業」をスタートしました。また、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む現場のESDを支援・推進するために、地域ESD拠点としてESD活動支援センターに登録しました。

地域拠点は全国にあり、関東地方は現在14の拠点が登録されています。当会は千葉県の窓口として活動していきたいと思っております。詳細は、ESD

活動支援センター

<https://esdcenter.jp/kyoten/>をご覧ください。

当会の目的は、環境活動の推進と充実を図るため、多様な主体とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすです。

この目的を実現するために、今年はさらなる活動へと展開していきます。

今年の干支の亥は、相場の格言に「亥固まる」があるそうです。「固まる」は、いい意味で、前年のいい流れをさらにいいものにしていくということだそうです。

法人団体としてスタートした流れを、今年はさらにいい流れとして活動していきます。皆さまのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 (以下「全国フォーラム」)が、平成30年11月30日(金)、12月1日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催されました。全国フォーラムは、持続可能な社会を担う人づくりに関わる多様な主体が一堂に集い、ESDに関する最新の国際動向、国内動向及びネットワーク形成の状況を共有するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会として、ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省が開催しています。

今回は、「SDGs(持続可能な開発目標)を地域で達成していくための人づくり:地域ESD拠点の可能性」をテーマに、SDGsを地域で達成していくための人づくりとしてのESDと、ESD推進ネットワークにおいて重要な役割を担う地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)をメインテーマに、企業、学校、市民団体などからの実践発表や、消費者の賢い選択をテーマとした省庁による施策紹介など、活発な意見交換が行われました。

2018年秋に当団体も千葉県で初めての地域ESD拠点となったことから、桑波田、川島、横山

の3名で参加させていただきました。

1日目は、基調パネルディスカッション「SDGs(持続可能な開発目標)を地域で達成していくための人づくり・ESDのさらなる展開に向けて」やポスター発表が行われ、2日目は、①学校と地域ですすめるESD ②自然災害に備える人づくり ③地域と「国際」をつなぐESD ④ユースの関わり、ユースの巻き込み ⑤体験活動を提供する施設のESDの5分科会が開催されました。全体で様々な主体がSDGs(持続可能な開発目標)を大きく取り上げていることも印象的で、今後の拠点としての活動に元気をいただいた全国フォーラムでした。(文責:横山 清美)



関東ESD推進ネットワーク

第2回地域フォーラム『地域でSDGs!』

“SDGsを自分ごととして捉え、地域や職場などで実践・行動するにはどうしたら良いか、どのような仕組みが必要か。”SDGsに貢献する取組みを地域のESD実践者と考える”をテーマで標題のフォーラムが、平成30年12月22日(土)午後、東京ウィメンズプラザで開催され、NPO環パちばから4名が出席しました。以下報告します。

フォーラムは最近のESD推進の経緯説明の後、ESDの取り組み4事例、①『地域を理解する、ジオパークと学校連携』“伊豆半島所パーク推進事務局”、②『食品ロス・貧困解消に向け、地域全体で考える』“NPO法人フードバンク茨城”、③『「誰も置き去りにしない」教育に抜け、地域と学校が連携』“多摩大学高大接続アクティブラーニング研究会”、④『各主体を繋いで取り組む、気候変動対策』“NPOアースライフネットワーク”が発表された後、参加者が4テーマに分かれ意見交換を行い、全体会でそれぞれのまとめを発表しました。

私の参加した④気候変動グループでは、気候変動に対し、ESDの観点でやりたいこと・やれること・ニーズに対応するというテーマで意見交換をした結果、「三方よしで続ける」「お金より、人。

つながりと信頼を大事にする」「相手・地域・時代のニーズが大切」という、ESDに取り組むに当たってのまとめを行い、全体会で発表しました。

なお、午前中には、関東地方ESD活動センターに「地域ESD拠点」として登録した14拠点のうち13拠点が出席し、活動紹介と拠点活動の進め方などの意見交換会をしました。NPO環パちばは「地域ESD拠点」活動が、“地域・各分野で取り組まれているESDをさまざまな形で連携・支援することでESD推進ネットワークの中核的な役割を担うものであり、法人の目的に沿うものと判断し、平成30年10月に登録をしました。



(文責:川島 謙治)

地域版 ESD プログラムづくり報告 (2)

だより 123号から4ヶ月ぶりの「地域版 ESD プログラムづくり」報告です。

11月に地域リーダーに2つのプログラムを作成して提出していただきました。一つは、リーダー自身が現在使用している環境学習プログラム。もう一つは、自ら課題を見出し解決を考えていく「ESD 取り組みの視点の要素」(①多様性 ②相互性 ③有限性 ④公平性 ⑤連携性 ⑥責任性)を入れたプログラムでした。

11月26日(月)午後千葉市民活動センターに集まり、グループでプログラムのブラッシュアップの後、全体でプログラムづくりから課題になった「学習者が習得できるESDの視点」について意見出しをしました。また、プログラムのフォーマットを統一した方が良いという流れから、フォーマットを作成しました。

このフォーマットに各々が書き入れたプログラ

ム集を資料に、1月21日(月)千葉市民会館にて、作ってみたリーダーのふりかえりから「ESDの視点を入れたプログラム」のフォーマットを更に検討しました。また、プログラムの活用方法とガイドブックとしての構成内容についても意見出しがされました。ガイドブックの「基本的な考え方・理念」として、「学校教育/社会教育/市民活動が連携・融合して、地域・環境・くらしとの関わり方、あり方を土台としたガイドブック」という言葉も導き出されました。更に対象(誰にとって)使い方(どのように)などの検討もされ、リーダーのご意見をいただいたところです。

次回の2月8日(金)には「地域リーダーが作ったESDプログラムガイドブック」の素案が出せるよう、主催者である当会が頑張ることになります。(文責：横山 清美)

いちほら市民大学環境コース

市原市民大学は、2年制の学習講座です。市民大学は、基礎講座(1年目に受講)、専門講座(2年目に受講)、教養講座(選択して受講)の3本の講座で構成されています。

環境コースは、専門講座の中の一つで、さまざまな環境問題を、講義・フィールドワーク・ワークショップなどの手法を用いて学習することで、身近なことからその解決を考え行動し、また学んだことを地域に伝え広めていく力を身につけて行くことを目指しています(市原市HPより)。

環境コース講座全11回の最後の2日間「環境まちづくりワークショップⅠ、Ⅱ」の講師を、当会(4名)で担当させていただきました。受講生は20名でした。

11月27日は、住んでいる地域ごとに4グループをつくり、自己紹介の後、環境の視点から、地域で気になること、自分で気になることを出し合いました。気になることとして、「ごみ出しのマナー」「養老川のゴミ」「産業廃棄物」「耕作放棄地」「温暖化」等の中から、実現できそうな課題を一つに絞り込み、実行計画づくりに取りかかりました。グループ内での話し合いを通して(時には脱線したり)、お互いの気どころなど知り合え、和気あいあいとなりました。

12月11日は、市職員に市の取り組みなども聞き、グループで熱心に話し合い、実行計画を作りました。最後に計画を発表し、他のグループから

の質問、応援メッセージ等をいただき、当会からは、「是非実行してくださいね!」とラブコールを送りました。

【取り組みたい課題と活動タイトル】

- I : 地域ゴミ(マナー向上、ルール徹底)
地域の環境は、我々住民で守ろう
- II : ポイ捨てゴミの放置
きれいな街に
- III : 路上のごみを減らす
ウォーキング プラス ワン
- IV : 荒れた遊休地を整備したい
遊休地を整備して花一杯に!



(文責：桑波田 和子)

平成30年度千葉県環境講座報告

こども環境会議ちば

今年のこども環境会議ちばは、12月2日に千葉県立中央博物館と青葉の森公園芸術文化ホール(練習室)で開催しました。県内の5つのこどもエコクラブから50名のメンバーやサポーターが参加してくれました。

最初は中央博物館の講堂に集合して、講師の中央博物館林浩二上席研究員とご挨拶し、一日の流れの説明を受け、芸術文化ホールに移動です。

まず『クラブ紹介』が行われました。パワーポイントで写真を映したり、模造紙に書いた活動報告を説明したり、どのクラブも一生懸命に発表してくれました。発表を聞いている人たちは、一人ひとりが緑・黄色・ピンク(赤)の付箋紙に、それぞれ「良かったと思うこと」「質問」「こうしたらもっと良くなると思うこと」などを書き込みました。発表が終わると、メンバーやサポーターさんは、自分たちのクラブに寄せられたコメントを読みました。どのクラブにも、緑の付箋紙(良かったこと)が多く貼られていました。

昼食の後はクラブごとに『博物館見学』です。最後に書いてもらったアンケートの「楽しかった

こと」の答えで、一番多かったのが博物館見学でした。たくさんの発見があったようです。

午後の『ワークショップ』は、午前中に寄せられたコメントや、他のクラブの活動発表を参考にしながら、これからの活動の計画を考えました。そして、考えたことを一人ずつ発表してもらいました。小さなメンバーも上手に発表ができました。

最後には交流タイムも設けました。実は活動場所がとても近いことが分かったり、家族単位のクラブ同士で話がはずんだり、短時間でしたがとても有意義でした。このように今年も、たくさんのことが盛り込まれた、楽しいこども環境会議ちばでした。(文責：小倉 久子)



平成30年度千葉県環境講座報告

講演 世界から見た日本の気候変動適応策

WWF(世界自然保護基金)ジャパン気候変動・エネルギーグループ長山岸尚之氏による講演が、12月19日(水)に市原市五井会館で開催されました。

講師は、講演の3日前に閉会したポーランドでの国連気候変動枠組み条約締結国会議(COP24)に参加され、その交渉経過というホットな話題を交え、気候変動適応策についての世界と日本の動きについて、質疑応答を含め以下の話をお聞きました。

今夏の猛暑と豪雨という異常気象は日本だけでなく世界中で多発した。経済発展の過程で、人の活動につながるエネルギーの使用・消費の結果、化石燃料消費によりCO₂等の温室効果ガス排出が温暖化の原因と言える。2100年には、産業革命前と比較して頑張ってもCO₂を削減するシナリオで2℃、このまま何もしなければ4℃の温度上昇が予測される。温度上昇は、地域の環境(生活・生き物)を根本的に変えてしまうという認識が必要。温暖化対策には温室効果ガス排出を減らす“緩和”と、影響に対し対応・準備する“適応”がある。我々には入手可能な様々な情報を駆使して適応対策を実施する責任があるが、基本は『緩和(削減)こそ最大の適応(対応・準備)』である。

温室効果ガス排出を確実に減少させているEU・米国と比べ、日本はリーマンショックで一時的に減少したが全体傾向では減少させていない。温暖化対策の国際的な動きとして、先進国と後進・途上国の現時点排出量と累積排出量のアンバランスがあるが、パリ協定で合意した目標に向かっての実施ルールを、先進国も後進・途上国も一致して今回合意した。トランプ大統領が離脱表明したが、米国内の“We are still in”と表明する州や企業に期待したい。

参加者からは、タイムリーで具体的な話を聞けたという感想をいただきました。



(文責：川島 謙治)

地球が壊れる前に上映会報告

2019年1月5日(土)に幕張国際研修センターで開催された映画会「地球が壊れる前に」に参加した。主催の自然エネルギーを広めるネットワークちば(リネットちば: <https://www.renet-chiba.net/>)は、再生可能エネルギーの普及を目指して主に千葉県内の市民団体や生活協同組合などが集まっているネットワーク団体であり、今回は団体の紹介と再生可能エネルギーの啓蒙活動の一環として、この映画会を開催している。

当日は12:30頃から会場である渚の間に参加者が集まり始め、13:30の開演時には180人以上が集まった。アカデミー賞受賞俳優であり、国連平和大使でもあるレオナルド・ディカプリオ氏が2年間にわたって全世界の気候変動の現場を旅したドキュメンタリー映画で、オバマ前アメリカ大統領をはじめ潘基文(パン・ギムン)前国連事務総長、ローマ教皇フランシスコなどとの対談をまじえつつ、気候変動が与える影響について、世

界各地からレポートしている。映画終了後には、NPO 法人アフリカ日本協議会理事 wcs コンゴ共和国支部 自然環境保全技術顧問である西原智昭氏から映画に関する講演が行われ、会場の参加者と熱のこもった議論が行われた。会場内では同氏の著書「コンゴ共和国 マルミミソウとホテルの行き交う森から」の販売会も行われ、多くの方が著者との交流を楽しまれた。

リネットちばは、ソーラーシェアリング事業を行う団体とも密接な関わりがあり、生活協同組合のネットワークを活用して温暖化防止に関する学習会や施設見学会などを企画・実施している。今後も多くの方が参加できるイベントを通じて、温暖化防止や再生可能エネルギーの普及に貢献していただけることを期待したい。

(文責：谷合 哲行)

書道紙リサイクルをご存知ですか？

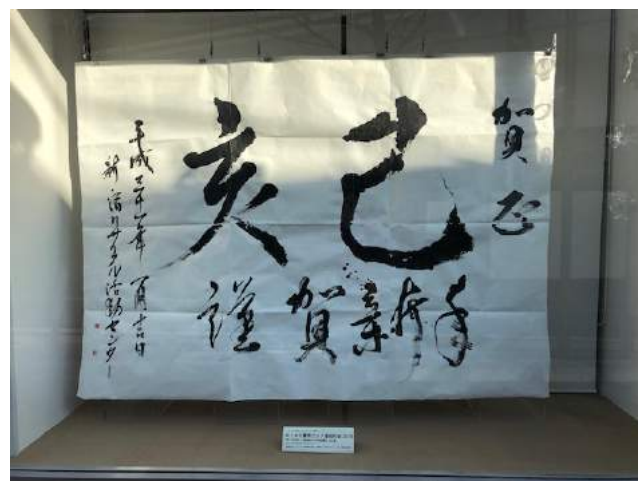
「書道紙リサイクルプロジェクト」は、一般社団法人 エコ再生紙振興会のプロジェクトです。「書道反古(ほご)紙が廃棄しかされていない現状を憂えて、これを再生して書道業界を含めた社会に還元して有効活用することを第一の目的」、「その活動を通して時代を担う子供たちへの環境問題に対する理解を深める資ともなれば」(エコ再生紙振興会ホームページより抜粋)という書道反古紙のリサイクル活動です。そこに所属されている書家の和田華仙先生を講師に招き新宿リサイクル活動センターで1月5日に開催された「わくわく書育ランド 書初め会2019」に参加をしました。

一般的に汚れや匂いのついた紙はリサイクルに不向きで、資源に混ぜないことになっています。それなのに強烈な墨の「汚れ」がついた半紙をリサイクルするなんて意外です。

書道紙リサイクルプロジェクトでは、学校に書道エコバッグを設置し回収。再生パルプ工場で圧縮梱包され、四国の製紙会社まで搬送。溶解脱墨、脱水とすすぎを繰り返します。そして製紙され再生半紙『未来箋』として生まれ変わり、再び学校の授業で使用するというサイクルです。製紙工場では、墨で汚れた半紙を扱うために通常の業務を停止し、全工場を書道紙リサイクル用に切り替えます。墨の汚れが飛び散るからで、この作業が終わると、工場中を清掃し通常の製紙業務に戻りま

す。手間、暇、コストがかかっているので多くの方がこの再生半紙を使うことで、書道紙リサイクルが回り続けます。

再生半紙『未来箋』はうっすらと墨色ののこる厚みのあるもので、書き心地のよい半紙でした。和田先生の字を手本に練習をしてから、最後に先生の書道パフォーマンスで、書道の楽しみを満喫しました。



☆ 未来箋の取扱い店舗は、下記 URL をご覧ください。<http://ecoshin.or.jp/sub9.html>

(文責：中村 明子)

首都圏市民電力交流会&見学会@千葉参加報告

2018年11月17日(土)、18日(日)に開催された首都圏市民電力交流会&見学会@千葉の交流会に共催団体の一員として参加した。このイベントはNPO 法人市民電力連絡会 (<https://peoplespowernetwork.jimdo.com/>) が主催して毎年首都圏の県ごとに開催場所を変えながら開かれている交流会である。2018年は、自然エネルギーを広めるネットワークちばが共催し、千葉県内外で活動する団体の協力のもとで開催された。

17日(土)の午前中は千葉エコ・エネルギー(株)が運営する千葉市大木戸アグリ・エナジー1号機の見学(参加者25人)の後、会場を「パルひろば☆ちば」に移動して交流会(参加者70人)が行われた。基調セッションでは、木村義彦・石川せり・鈴木友和の3氏が活動状況を報告した(コーディネーター:松原弘直・コメンテーター:竹村英明・馬上丈司の3氏)。また、パネル討論1「千葉県内の市民電力パワーアップ大作戦」では、青木弘・青木一男・斉藤真実・高山敏朗の4氏が活動状況を報告した(コーディネーター:森田一成・コメンテーター:

山崎求博の両氏)。更にパネル討論2「市民電力とソーラーシェアリングの未来」では、高澤真・佐久間晴一・浅輪剛博・入澤滋・山川勇一郎の5氏が活動状況を報告した(コーディネーター:馬上丈司氏)。

現在、千葉県は再生可能エネルギーと農業を融合したソーラーシェアリングの設置面積日本一であり、18日(日)には県内最大のソーラーシェアリング施設である匝瑳ソーラーシェアリング発電所の見学も行われ、多くの人に参加できる新しいタイプの地域活性化事業に発展していることが実感できるイベントであった。(文責:谷合 哲行)



千葉市大木戸アグリ・エナジー1号機現地見学会

水環境研究所公開シンポジウム

「印旛沼、未来への可能性」報告

平成30年12月1日に佐倉市立美術館において、NPO 法人水環境研究所主催の標記シンポジウムが開催されました。環パちばが後援団体の1つになっており、テーマも興味深いものでしたので、聴きに行ってきました。プログラムは以下のとおりでした。

第1部

- ・基調講演：印旛沼流域の地形・地質的特徴
(千葉大学 近藤昭彦教授)
- ・研究成果発表：
 - ① 印旛沼流域の地形・地質的特徴
(千葉大学 堀江政樹氏)
 - ② 谷津湿地における水質浄化の特徴
(水環境研究所 瀧和夫理事長)

第2部 パネルディスカッション

「印旛沼、未来への可能性」

座長：東邦大学 西廣 淳准教授

近藤先生の基調講演は、先生の持論でもある「超学際・市民科学によって印旛沼をもっと良くしていこう！」がさまざまな角度から熱く語られ、参加者に感動を与えました。

続く研究発表①では、印旛沼流域の谷津の位置確認、その谷津が水田として機能しているか放棄水田かをリモートセンシング技術で解析し、放棄

水田を活用して印旛沼の水質浄化に役立てようという提案がされました。

研究発表②では主催者である水環境研究所の調査活動の発表がありました。専門家集団であるこのNPOは、「市民」ではありますが、非常に質の高い調査研究を行っています。

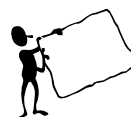
第2部ではフロアからの意見も活発に寄せられました。印旛沼流域に無数にあった谷津(田)が激減し、(埋立てなどにより)その地形そのものも消えた場所も多いという事実を科学的に突き付けられ、私を含めた参加者は一様に驚きました。さらに、失いつつある(すでに失った)谷津の果たす役割の大きさを知り、これからの印旛沼・流域を考える時に谷津というキーワードが最も重要であることを再認識させられました。

(文責:小倉 久子)



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 48 —

おききました！ この人・この団体


 NPO 法人 ^{しただ もり} 下田の杜里山フォーラム

～ 街なかに残そう豊かな緑の里山 ～

広報 きの れいこ

●下田の杜とは…人口 42 万人の中核都市柏市南西部の自然拠点である 5.4ha の里山。周囲の都市化の勢いはハイピッチで進んでいるが、表のバス通りからこんもりと茂る樹木のトンネルを入ると、タイムスリップしたような里山の風景が目飛び込んでくる。下田の名称はこの地に 300 年以上、地域の歴史とともに歩んできた齋藤家の屋号で、周りの台地から見るとまさに‘下の田んぼ’といえる谷津地形の懐かしい里山の原風景をそのまま残している。‘杜’の言われも、農耕の神様、お稲荷さまを祀った西側のヤマ(こんこんやま)が由来だ。北側には江戸時代の野馬除け土手が 200m 以上残っている。

1994 年に柏市が 1.7ha を「酒井根下田の森緑地」(都市緑地)として設置したが、この公園部分と残りの樹林地や生産緑地(私有地)など全体の保全に向けて、地権者と共に当会が維持管理作業と地域への周知・案内活動を行っている。

●里山の自然と活動・・・谷津の 9 カ所から 1 日およそ 70t の水が湧き出し、上富士川の源流になっている。この豊かな湧水のお陰で屋敷林や斜面林に樹齢数百年を数える巨木や深い緑の照葉樹・常緑樹が育ち、東から南にかけての斜面には果樹林が四季折々の花を咲かせ、実を結ぶ。樹林地では倒木、落ち枝、落ち葉などの処理作業、果樹園の下草刈りや剪定などの作業が、田んぼや畑地では年間を通して、米作り、麦・ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ソバ、大根などの植え付け、収穫作業が行われ、収穫物は参加者や地域交流行事に供している。

こうした人の手が入った里山の豊かな自然があるため、多様な動植物の生息が見られる。樹木は 160 種、草花は 290 種。この森や林に来る野鳥は 64 種(生態系の頂点にいる猛禽類のフクロウも営巣し、毎年雛をかえしている!)昆虫の種類も大変多く、チョウは 47 種、トンボは 28 種。その他の昆虫も現在調査中だが 2000 種近く発見されている。水質調査や生き物調査(貴重種や外来生物も含めて)など自然環境の保全研究事業もフ

ォーラムの大事な事業だ。

里山の豊かな自然や農耕文化を学ぶ場が市街地の直近にあるということが、下田の杜の最大の魅力ではないだろうか!近隣にある 3 つの小学校、2 つの中学校、大学などの環境教育が継続的に行われている。各学年に応じた観察会を四季折々に実施できるよう管理作業を工夫している。

3 年生の社会科で「昔の暮らし」を学ぶときも古民家や古民具に実際に触れてみるができる。5 年生の米作り体験では田植えから稲刈り、脱穀まで行い、残った稲わらで 12 月には稲作の指導をした“守り人”(会員)のおじさん・おばさんたちと交流しつつ「しめ縄作り」をする。

6 月「ちょっと早い夏まつり」、11 月「里山まつり」などは地域交流の大イベントだ。夏は里山の自然素材を使った工作(竹細工・ワラ細工・木の実工作など)。秋は小学生の豊年太鼓隊や中学生ボランティアが餅つきなどに参加。地域社会と子どもやその親世代以上との交流の場として、人口密度は高くとも人の結びつきが薄れている市街地のまちづくりには欠かせない行事になっていくのではないか。

一昔前は食糧生産、燃料、生活用具、建材などの生産地としてなくてはならない里山だったが、都会の生活者はその全てを外部流通、大規模店舗を通して便利に消費するだけになった。見えなくなってしまった“自然=大切な命を支える仕組み”や“暮らし=これまでの歴史と人として生きていく知恵”などを再び問い掛けてくれる里山の価値を“地域の宝”(下田の杜に学んだ子どもたちの言葉)としてまちづくりにぜひ生かしていきたい。



小学 3 年生
夏の自然観察会 (6 月)



森の手入れ作業 (12 月)

運営委員会報告

12月運営委員会

日時 12月13日(木) 15:00~18:00

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・県環境講座 実施状況 11/11 11/18 12/2
- ・30年度事業 地球環境基金、再生基金助成金事業、フロン助成金報告書提出
- ・理事会開催 1/17
- ・ESD推進ネットワーク全国フォーラム出席
- ・千葉市公民館事業提案シート検討

【協議】

- ・県環境講座 12/19
- ・31年度事業について (SDGs達成のためのESD担い手育成事業、環境講座等、地域ESD、地方創生SDGs、法人運営の充実)
- ・地域ESD推進拠点等の意見交換会・関東ESD推進ネットワーク出席 12/22 ・だより125号

1月運営委員会

日時 1月10日(木) 13:00~15:30

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・県環境講座 実施状況 12/19
- ・31年度事業について
- ・関東ESD推進ネットワーク 12/22

【協議】

- ・地球環境基金 第5回ESDプログラムづくり 1/21
- ・31年度事業について
- ・だより125号
- ・31年度総会について 5/26
- ・その他

【ホームページ構成・コンテンツの検討】

15:30~18:00

- ・提供コンテンツの充実とセキュリティの改善をめざすための基本構成の意見交換を行なう

お知らせ

うらやす市民大学特別公開授業 2019

日時：3月2日(土)13:30~16:30

場所：市民大学校 (うらやす市民大学)

浦安市入船 5-45-1 まちづくり活動プラザ
3階

1限目：「身近な海、東京湾を見つめよう」

講師：芝原達也氏 (習志野市谷津干
潟自然観察センター副所長)

2限目：「パリ協定の下での温暖化対策：世界
と日本の取り組み」

講師：山岸尚之氏 (WWFジャパン気
候変動・エネルギーグループ長)

申込方法【先着順】2/15(金)から受付開始

直接または電話(047-351-4811)で、市民大学
校窓口までお申し込みください。

「守ろう！海の生態系」

プラスチックの海洋汚染問題を中心に、環境保全について紹介します。日本UNEP協会の鈴木基之代表理事、東京農工大の高田秀重教授、書道家の岡西佑奈さん、イオン株式会社の三宅香執行役が出演。

◇日時 3月23日(土) 午後1時半~4時

◇会場 日本プレスセンター10階ホール
(東京都千代田区内幸町2の2の1)

◇定員 350人。応募者多数の場合、抽選。

◇申し込み 東京新聞ホームページからか、普通はがき
(1枚につき1人)に、氏名、郵便番号、住所、性別、年齢、電話番号を明記し、〒100-8505 (住所不要) 東京新聞 出版・社会事業部「フォーラム 環境」係へ
3月11日締め切り (必着)

◇問い合わせ 同係 = 03 (6910) 2525
(平日午前10時~午後6時)

◇主催 東京新聞、日本UNEP協会

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉県花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633

E-mail : info@kanpachiba.com

http://kanpachiba.com/

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HP でご確認ください。